

た。

二、大正十四年度総同盟大会

関東にも関西にも此の如き騒動を速せざる際開催せらるる
 派の幹部政撃に自熱的緊張を来した。既に才一日に
 赤松が政治部長及松岡駒吉は詰問的質問を諾せり
 北松が、才二日には其鋒芒は鈴木會長西尾立事に及
 び、執拗な質問が繰返へされ、幹部派の激昂を招い
 た折柄、左傾派の領袖連が神戸市内の某所に合し
 て策動しつゝある事が、右傾派の知る如くあつたの
 で、茲に右傾派は大反機械労働組合を先頭に敢然と
 して対抗手段に出でた。或は左傾派排斥の勳機が大
 会席上に提出せられんかと思はれられたが、幸よく
 此に至らざりて才三日を終了する事を得た。右傾派の
 勿論関東地方評議會は承認せらるる事、規約の改正は
 右傾派の利益を擁護する手段と見られ、左傾派の憤

懣は其極に達し、早晩分裂の已むおさを思はしめ、大
 会終了の際の鈴木會長及塚本中央委員の挨拶には左
 傾派排斥の決意が言外に溢れて居た。

三、左右両派の策動

事態此の如きを以て右傾派の中心たる関東同盟会は、
 此際速に左傾分子を排除するを可とし、三月廿五日理
 事会を開いて山本懸亮、渡辺政之助、松浦啓一の三名を
 総同盟より除名すること、関東地方評議會を解散する
 こととを総同盟中央委員会に要求することとに決し之に
 呼應して大反聯合会は、関西左傾派の急先鋒たる辻井
 民之助、中村義明、鍋山貞信の三名の除名を要求するこ
 とに決した。

此に於て関東地方評議會は、執行委員長山本懸亮を関
 西に派し、各地同志の糾合に努力せしめ、東京に於ては、
 二十七日中央委員会開催の當日大会を開き、総同盟現
 幹部排斥、総同盟内部刷新運動開始の決議を為して完